

梅鶯仏教壮年会報

第165号
2020年
5月24日

5月例会

期日：5月31日（日）

夕刻5時～

※今般は、コロナウイルス感染対策としての三密を避けるため、お勤めのみとさせていただきます。



本来大切な人との「つながり」が、今は安心感ではなく、不安をもたらすものとなってしまっています。しかし、「つながり」を表面的に捉え、危険なものと否定的に考えてはなりません。世界的な感染大流行という危機に直面する今だからこそ、私たちは仏教が説く「つながり」の本来の意味とその大切さに気づいていく必要があります。

新型コロナウイルス感染症に関する

「念仏者」としての声明（宗派）よ

り

「無量寿」の額は「はかることのできない命」と解釈したらよいのか。解説して下さい。

（回答）大変大事な質問事項ですので、少し丁寧にお応えさせていただきます。まず「無量寿」とは「無量光」とともに、私達のご本尊「阿弥陀さま」の別名です。もととも「阿弥陀（アマミダ）」とは、インドの古い言葉「アミタ」を音写したものです。「アミタ」は無限の光、「アミタ」は無限の寿命という意味で、中国で「無量光」「無量寿」と訳されたのです。それでは「無量光」「無量寿」とは、どういう意味なのでしょう。言葉の意味そのものは「計り知れない光と寿（いのち）」ということになります。それは阿弥陀さまの働きを表しているのです。

阿弥陀さまは、あらゆる衆生（凡夫と呼ばれる私たちのこ）を救済したいとの願いを建て、その願いを完成させて仏と成られました。

したがって、その働きはいつでも、どこでも「無量光」と「無量寿」の時代（場所）に限りがないという働きで、「光」は空間を表しますから、「無量寿」であり「無量光」なのです。

また「寿」とは「慈悲」を表す言葉でもあり、「光」は「智慧」を表す言葉でもあります。阿弥陀様の衆生救済は、「愚かな私をそのまま抱き取る」という「慈悲」の働きであり、「その愚かさを破って正しい世界へと導く」という「智慧」の働きでもあります。その二つの働きにも限りがあります。

題材法話

前々号からのつづき

と、昨年自分自身の部屋と、父親の部屋に残された沢山の山の本や資料のい

ました。「断捨離」を実行し「勿体ない」「ものを大切にしない」という視点

も大事にしなから、これはまで執着心からなにとはなく残していたものを「迷わず捨てる」という断捨離です。

私の部屋も、父親の部屋も本当にスッキリし、何を味わうことができま

た。断捨離という字をひもといてみますと、「断」とは「入ってく

いうことなのです。○仏様の世界

断捨離とは、「離れて、捨てる」ということなので離れる」ということなので離すね。

仏教では、物にこだわったり、自分の都合だけ物事を判断したりする

ことを「我執」「我欲」と呼び、この心が様々な悩みをもたらす。これが煩惱と呼ばれ

るもの。この「喜捨」という言葉があり、施しをしたり寄付したりするこ

とを云います。喜び「な」とは「捨てる喜び」なのだと言います。こ

れる」ということはとても大事と考えます。断捨離を

執着心無くし、煩惱を断ずるところに、真実の世界があると教えるのが

○不断煩惱の導き
断ち切つて悟りを得ようとするのが「自力聖道門」の世界です。

と、ところが私達の物へのこだわりは、そう簡単に捨てきれぬものではな

く、完全に執着心から「離れる」ことなどは不可能なのです。

私達が、「煩惱具足の凡夫」といわれる所以です。そこで親鸞聖人があ

く「不断」なのです。煩惱を断たないまま

涅槃（平穏な世界）を得ることが出来ると詠われているのです。

○法然上人の断捨離
お念仏の世界なのです。法然上人がお念仏の教

えを著された「選択本願念仏集」、この「選択」というのも「選

る」ということ、お念仏を選び、それ以外の道はすべて捨て去ること

です。お念仏以外の教えは一切必要ない、捨て去りなさいと仰るのです。仏教の教えの中でのこ

